

はまごう小だより

あいさつ えがお
挨拶と笑顔でつながろう！

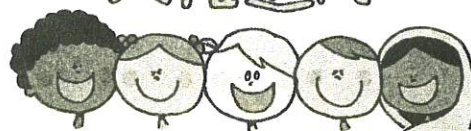
伊勢市立浜郷小学校
令和3年12月23日
発行者 平生 理恵

第22号

人権週間とは？

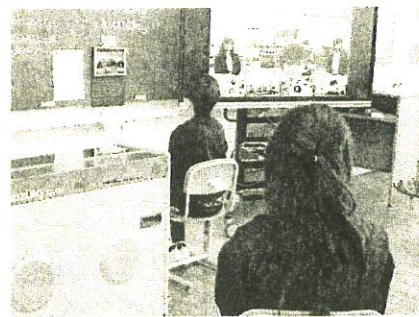
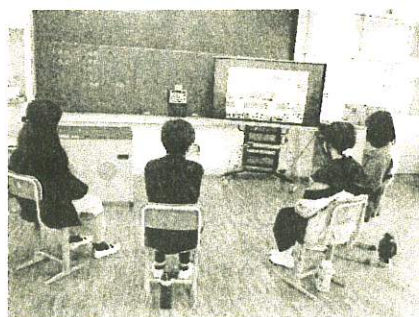
昭和23年12月10日、国際連合第3回総会において全ての人民と全ての国とが達成すべき基準として「世界人権宣言」が採択されました。世界人権宣言は基本的人権尊重の原則を定めたものであり、初めて人権保障の目標ないし原則を国際的にうたった画期的なもので、採択された12月10日は「人権デー」と定められています。そして、法務省の人権擁護機関では、昭和24年から毎年、人権デーを最終日とする1週間を「人権週間」と定め、その期間中、各関係機関及び団体と協力して全国的に人権啓発活動を展開し、人権尊重思想の普及高揚を呼びかけています。

人権週間



オンラインで人権フォーラムに参加しました。

伊勢市では毎年、『子ども人権フォーラム』が開催され、今年度は11月24日には小学校を、12月1日には中学校をオンラインでつないで開催されました。人権フォーラムでは市内の小中学生が書いた人権作文を聴き、その内容について思ったこと感じたこと等を発表して、児童生徒が意見交流を行います。浜郷小学校からも4名の6年生が代表として参加しました。オンラインとはいえ、市内の全小学校の代表児童の前で意見を言うのですから緊張もあった事かと思いましたが、この代表の4人は全員堂々と自分の意見を述べていました。



人権集会を行いました。

12月4日から12月10日までの人権週間を受けて、12月8日（水）3限目に低学年が、12月10日（金）2限目に中学年が、3限目に高学年が人権集会を行いました。

それぞれの学年で人権作文の発表と、その内容について思ったこと・感じたこと・考えたこと等を交流しました。

1年生は、自分がしてしまったことの失敗を後悔し、「ごめんね」と言ったとき「いいよ」と許してもらって嬉しかったという内容。2年生は6年生に優しくしてもらった経験から、自分もそうなりたい

と願う内容。3年生はいつもお母さんが自分たちのことをしてくれているので、感謝の気持ちをこめて、お父さんと一緒に家族のご飯を作ったという内容。4年生はコロナ禍において、今まで当たり前と思っていたことが当たり前ではなくとても幸せなことであったと気付くと同時に家族に感謝の気持ちを持つという内容。5年生は身近な方が亡くなったことで、その人に対してできなかったことを後悔しながらも、その気持ちを自分なりに克服していくという内容。6年生は人権フォーラムで提案されていた作文で、いじめにあった自分が行動を起こすことで自分の状態を好転させていくという内容でした。



1年生



2年生



3年生



4年生

どの学年も、素直に自分の思ったことを言葉にして交流し、みんな真剣に人権について考えていました。全ての人権集会に参加させてもらった私は、小学生の子ども達が作文の内容を自分の事として捉え、一生懸命考え定見を出している姿に感動し、本当に温かな気持ちにさせてもらいました。

浜郷小学校の子ども達の素晴らしさをまたひとつ見つめることのできるステキな時間となりました。



5年生



6年生

人権問題講演会を開催しました。



12月14日(火)、昨年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大予防のため開催できなかった人権問題講演会を浜郷同推協と浜郷小学校PTAの共催で開催しました。

講師にお招きしたのは、元黒瀬市民館長で、現在みやま保育園の園長をしておられる竹内勇夫先生です。同推協の皆さんにとっては大変懐かしと思われる方だったことだと思います。市民館のお仕事として、さまざまな講座を企画していただくのですが、その中の人権啓発を目的とした「成人学習講座」をふり振り返りながらのお話を聞かせていただきました。また、お話の合間には、現在園長先生としてどのように園児さんたちと触れ合っておられるのかも聞かせていただきました。竹内先生は以前からとても穏やかな方でしたが、この日の先生のお顔は、さらに園長先生としての優しさに溢れておられました。先生からご紹介いただいた書籍『差別はたいてい悪意のないひとがする：見えない排除に気づくための10章』は、是非とも読んでみたいと思います。

ご講演いただいた竹内先生、ステキなお話ありがとうございました。また、遅い時刻の開催にもかかわらずご参加いただきました同推協の皆様、PTAの皆様、本当にありがとうございました。今後ともよろしくお願いいたします。

